

スマートホスピタリティ事業(来訪者の回遊促進プロジェクト)・概要(Uスマート推進協議会)

■都市課題

- 賑わいのある中心市街地の形成
- ・来訪者の長時間滞在
- ・中心市街地回遊、消費増加

■解決方策

- ・回遊促進効果につながる情報コンテンツの提供
- ・顔認証決済、施設入退場サービスの提供

■KPI

- ・アプリダウンロード、会員登録数
- ・クーポン利用率
- ・広告によるホームページ誘導率
- ・顔認証決済、入退場利用率

■実証実験の概要・目的

来訪者(観光、ビジネス、スポーツ観戦等)の回遊性向上を目指し、顔認証技術とスマートフォンアプリを連動させたサービス提供による効果検証を行う。

■実証実験の内容

①スマホアプリを活用した回遊促進効果につながる情報コンテンツの提供

- ・宇都宮市への来訪者向けに、回遊促進につなげるサービスを一元的に提供するアプリをリリース
- ・スポーツイベント会場や、店舗等で告知し、アプリダウンロード、属性情報の登録を促す。
- ・登録した来訪者に対し、クーポン、広告、観光情報等を配信し、利用状況を把握する



②顔認証決済、施設入退場サービスの提供

- ・アプリに顔データと決済情報を登録し、市内4店舗に設置した決済端末に顔をかざすことで決済できる仕組みを構築
- ・顔認証決済による利便性向上効果を店舗アンケートにより測定
- ・利用者データから来訪者の購買行動を把握。今後のキャッシュレス化促進に向けた施策立案に活用

上記実証内容の結果を踏まえ、スマートホスピタリティ事業の収益性やサービス内容、事業主体の在り方を含めた持続可能な事業モデルの検証を行う。

■実証実験で得られた成果・知見

取得データの分析から、中心市街地回遊促進という観点で以下の内容が確認できた。

①有効性が認められた点

- ・アプリ会員登録促進に向けて、来訪目的に合致する地域コンテンツ(スポーツチーム等)との連携は有効施策になり得る。
- ・登録会員の10%以上がクーポンを平均約2枚利用したため、クーポン提供は回遊施策になり得る。
- ・クーポン利用を促進させる手段として、ターゲットを明確に設定し、インセンティブを付与することが有効策と考えられる。

②今後の改善を要する点

- ・従来のアプリはダウンロードのハードルが高いため、LINE等の連携により利用促進を図る必要がある。
- ・提供コンテンツの閲覧機会向上に向けて、地元メディアとの連携による地域密着型コンテンツのターゲティング配信等の施策が必要

■今後の予定

今回の実証で得られた成果・課題を勘案し、以下の観点で実装を目指す

- ・LINEとの連携によりダウンロードのハードルを下げ、アプリ普及を図る
- ・スポーツチームや訴求力の高い施設、店舗との連携により利用者層の拡大を図る
- ・過去の行動履歴や属性データに応じたターゲティング情報配信
- ・地元メディアとの連携による地域に即した有効コンテンツの配信